



2021
MARCH
Vol.3

多摩ブルー・グリーン倶楽部 会報誌

Tama Blue & Green Club Magazine

たまの力

INTERVIEW

- P2** **トップリーダーに聞く**
株式会社メトロール 代表取締役 **松橋 卓司 氏**
- P3** **新事業にチャレンジ**
のぞみ株式会社 代表取締役 **高田 淑朗 氏**
- P4** **事業承継を経験して**
株式会社オギノパン 代表取締役社長 **荻野 隆介 氏**
- P5** **グローバル企業の最前線**
SIシナジーテクノロジー株式会社
代表取締役社長 **志村 秀幸 氏**
- P6** **地域貢献**
株式会社ユニフローズ 代表取締役 **森川 秀行 氏**
- P7** **倶楽部事業レポート**



お客さまの幸せづくり
たましん

定期的な社内対話で価値観を共有 つねに組織改革を行い クリエイティブな経営を目指す

**産官学連携の研究で
業界標準の確立にチャレンジ!**

さまざまな工業用センサを開発・製造・販売する株式会社メトロール。刃先の摩耗を検知する「ツールセッタ」においては、17カ国・70社以上の工作機械メーカーに採用され、世界トップクラスのシェアを誇る。また、世界最小級の「精密位置決めスイッチ」を開発し、話題をさらった。高精度かつオリジナルティ豊かであることが、メトロール製品の特徴だ。

「製品開発において『真似はされても真似はしない』がモットー。性能・価格・デザインの領域において、従来製品と明確に差別化されたものづくりを目指しています」と、代表取締役の松橋卓司社長。

同社はいま、自動化が不可能とされ、未だ人間の手の感触や目視で確認・コントロールしているNC研削盤の完全自動化の実・無人化の実



現に取り組んでいる。研削盤トップメーカー、岡本工作機械との共同開発で、NEDOPロジエクトに採られたものだ。さらには、昨年12月からは、JAXAと名古屋工業大学とともに、宇宙空間での電波による無線給電の共同研究を開始。新たな業界標準の確立にチャレンジしている。

まつはし たくじ
株式会社 **メトロール** 松橋 卓司氏
代表取締役

東京都出身。大学卒業後、日清食品株式会社などを経て、1998年、自身の父が創業した株式会社メトロールに入社。2009年に同社の代表取締役役に就任。

**対話による社員同士の
深いつながりが
イノベーションを起こす**

社員の平均年齢は37歳、女性社員の比率65%。メトロールはダイバーシティ経営で知られる。また、さまざまな新規事業・技術開発を「社内対話」で進めているのが特徴だ。その理由を松橋社長は次のように語る。

「真理を追究するためには対話が必要です。しかし対話の場にヒエラルキーや専門家としての権威を持ち込むと、安心安全の場が形成されず、バターン思考に陥ってしまいます。個人の思考を集団思考に昇華させ、イノベーションを起こすには、安心安全の場の形成と、そこでの対話が必須だと思っています」

松橋社長自身、「役職より役割、議論より対話、競争より共生」を心がけている。さらに、毎年社員一人に30時間、自分の心と向き合うことや、他人との対話の手法を学ぶための講習を行っているのだそうだ。

「一人ひとりの心と社員同士の対話による深いつながりから、付加価値が生まれると思っています」

このような取り組みを続けながら組織としての価値観の見直しを図ったことで、「バワハラ・モラハラなどがなくなり、絶え間ない改善と、ブレイクスルーでできなかった技術的なイノベーションが連続して起きはじめています」のだそうだ。

第8回多摩ブルー賞 最優秀賞受賞

株式会社 **メトロール**
<https://www.metrol.co.jp>

東京都立川市高松町1-100 立飛リアルエステート25号棟5階
TEL:042-527-3278 FAX:042-528-1442
E-mail:matsuhashi@metrol.co.jp

●創業:1976年6月 ●従業員数:108名(2021年2月末現在)



社長のひとこと

社員に自己肯定感と自己共感を持ってもらうことが大事だと思っています。そのうえで、自分の専門分野を見極め、ときにはリーダー、ときにはフォロワーとして、他人とつながりながら事をなしてほしいですね。そのために対話が必要です。

小型化が難しいとされていた 429MHz帯無線モジュールの 世界最小サイズを開発



のぞみ株式会社

代表取締役

たかた

としろう

高田 淑朗 氏

東京都出身。東京工業大学卒業。沖電気工業株式会社、株式会社沖テクノカラーを経て、2009年1月にのぞみ株式会社に入社。同年2月、代表取締役に就任。

「不可能」を「可能」にしたことで さまざまなシステムに活用

無線通信機器や組み込みシステムの開発・製造・販売を手掛けるのぞみ株式会社は、世界最小の429MHz帯無線モジュールを開発し、業界から一斉に脚光を浴びた。どんな点に着目して開発に至ったのか、同社の高田淑朗社長に伺ってみると、次のように答えてくれた。

「429MHz帯の無線は『通信距離が長い』『障害物に強い』『水分に強い』などの長所がありますが、電波法の規制が厳しいことや波長が長く小型化できないという問題がありました。しかしかねてからこの帯域の無線機をセンサーと組み合わせて人体に装着したいという要求が寄せられていたことから開発に着手しました」

小型化へのチャレンジを決めてからは、試行錯誤の日々だった。世界中から小型で性能のよい部品を求め、ある部品は特注して調達するなどして、実験とシミュレーションを繰り返し、ついに電波法の規制をクリアした。429MHz帯無線モジュール小型化の実現に至ったのだという。

この完成により、「小型無線センサーを人体に装着し、体調を把握するシステム」「農場や農業用ハウスに設置し、温

度、湿度、日照などを把握するシステム」「電線、水道建築物などに設置し、たわみや揺れなどを把握するシステム」などさまざまな活用されている。

同社は昨年、429MHz帯無線とSigfoxとを結びブリッジを開発。これによって、429MHz帯無線だけでインターネットとの接続が可能になる。

「今後はこれらを活用して、広域のセンサーネットワークに対応できる製品を展開していきたい」と高田社長は展望を語る。

国際的な技術交流が 開発力をさらに押し上げる

高田社長は1989年、インドでソフト開発をスタート。日本人がインドで直接ソフト開発を行なった最初のケースだという。また、モンゴルやトルコの防災システムの開発にも携わっている。トルコは地震国であるし、モンゴルは通信網がまだ整備されていないことから、地震などの災害時の通信システムに同社の製品が注目され、現地の公的機関や企業とともに実験を繰り返しているのだそう。

このような国際的な技術交流により、各種の技術的知見が容易に入手できる環境も、同社の開発力の一助となっている。

第15回多摩ブルー賞 優秀賞受賞

のぞみ株式会社

<http://www.nozomicorp.jp>

東京都多摩市関戸4-23-1

TEL:042-319-6146 FAX:042-319-6148

E-mail:takata@nozomicorp.jp

●創業:2008年10月 ●従業員数:7名(2021年2月末現在)



社長のひとこと

センサー制御や無線機まで自社開発できることが強みです。当社の無線機は28kmの通信実績があり、水中からも1.5m程度なら通信可能。また、遠隔地から機器の状況をモニターする機能も有しています。ぜひ会員の皆さまの製品に付加することをご検討ください。



株式会社 オギノパン 代表取締役社長

おぎの りゆうすけ
荻野 隆介氏

神奈川県出身。東京栄養食糧専門学校を卒業後、2008年に株式会社オギノパンに入社。工場直売店店長、取締役販売部長を経て、今年1月に代表取締役社長に就任。

創業60年の歴史と信頼を引き継ぎ

お客さま、取引先、スタッフ

「みんなよろこぶ」経営を目指す

着々と進めてきた 事業を引き継ぐ覚悟と準備

2021年1月1日、株式会社オギノパンは、前代表から荻野隆介社長へと事業のバトンが渡された。

子どもの頃から「いずれ事業を引き継ぐ」と自覚していた荻野社長は、2020年を事業承継の目処に着々と準備を進めてきた。専門学校卒業後は3年間と期間を決めて、あえてパンとは無関係のウェルネス業界に飛び込み、スポーツインストラクターとして働いた。「異業界かつ縁もゆかりもない場所に身

を置くこと」もまた自分自身へのチャレンジであり、後に自社の経営を担っていくからこそその準備の一つだった。

オギノパン入社後は、1年目は製造を中心に実務経験を積み、2年目以降は工場直売店の店長、後に販売部長を経て、今年から代表取締役社長を務めている。

「今は引き継いだばかりで、店舗の地主さまや取引先の役員の方がわからないなど混乱することもありますが、これまでも事業の継続性を考えてやってきたつもりなので、仕事の範囲については大きな変化はありません」

ただ、「社長」と呼ばれることにはまだ慣れず、なんとも言えない重圧を感じて深呼吸することが増えたそうだ。

創業50年を機に本社移転 大きく経営の舵を切った

創業以来、学校給食のパンを中心に製造してきたオギノパンは、創業50年となった2010年に本社工場を現在の

場所に移転。これを機に設備投資による作業の効率化、工場横に直売店の設置、店内レジのセミセルフ化、工場見学、イベント出店、パン教室などさまざまに取り組んだ。現在では直売店舗は7店に増え、知名度も上がりメディアに取り上げられることも多い。

当時、直売店の店長を務めていた荻野社長は、店内レジのセミセルフ化に携わったという。そのときの様子を聞いてみると、次のように語ってくれた。

「セミセルフレジの専用機はなく、一般的なレジの『つり銭・つり札機』をお客さまに向けて設置したことで、大幅にコストカットできたことが成功点ですね。衛生面においても『お金に触る人・機会』が減ることで、お客さまから『納得の声』をいただきました。入金されている間に袋詰めを進めることができ、回転率の面でも良かったと思います」

同社の企業理念は「みんなよろこぶ」。荻野社長はこの理念の具現化を目指している。

「今まで以上に多くの方に、『おいしい、楽しい、また来たい』と思っていただける会社には、『取引して良かった』と思っただけのビジネスパートナーに、そしてスタッフには『オギノパンで働いて良かった』と思ってもらえる瞬間が増えるようにしたい」と語ってくれた。

第15回多摩グリーン賞 優秀賞受賞

株式会社 オギノパン
<https://ogino-pan.com>

神奈川県相模原市緑区長竹2841
TEL:042-780-8121 FAX:042-780-8122
E-mail: ryusuke@ogino-pan.com

●創業:1960年5月 ●従業員数:170名(2021年2月末現在)



社長のひとこと

中小企業ですから「やれることはなんでもやってみる」精神を大切にしています。自戒を込めて、月に一度のゴミ庫の掃除は自分が担当。これからも続けていきます。

お客さまと社会との シナジー展開により、 テクノロジーを通して 人と社会に貢献していきたい

SIシナジーテクノロジー株式会社 代表取締役社長

しむら ひでゆき
志村 秀幸氏

神奈川県出身。株式会社東芝にて通信システム開発業務に従事。退職後、ベトナム現地法人社長などを経て、2013年にSIシナジーテクノロジー株式会社を設立。



「信頼性」「安全性」
「高性能」さらに
「低コスト」「簡単」を実現

地上波デジタル放送・ダム・鉄道向けシステムなど社会基盤を支える機器群、サーバーコンピュータ用機器群などの受託開発・製造を行うS・Iシナジーテクノロジー株式会社。ソフトウェアをワンチップ化するなど独自の技術で注目を集める技術者集団だ。志村秀幸社長は開発の際に大切にしていることを次のように語る。

「当社の主要事業である社会インフラ関連機器は、24時間365日無人環境で動作し続けることが求められます。停止など最悪の状態に陥った場合でも、必ず『安全側』に倒れる設計にしなければなりません。このように産業用途において機能・性能だけではなく、信頼性・安全性をも担保する開発設計が当社のコアコンピタンスでもあり、大切にしていることです」

近年では社会インフラ向け機器群のほか、自社製品として、低コストでディープラーニングの実装を実現する「産業用・人工知能ネットワーク端末装置 AI-NEUTROK TERMINAL」など、AI・IoT関連の画期的な製品を生み出し注目を集めている。

PCT取得や
海外での産学連携

現在、同社は国際特許(PCT)出願取得による海外展開や、ベトナムのハノイ工科大学との産学連携での共同研究に努めている。かつて志村社長は東芝で銀行のオンラインシステムやダムの管制システムなどさまざまな通信システム開発に携わり、退職後はベトナムソフトウェア開発会社の社長として現地赴任し、ASEAN向けFXシステムの開発やオフショア開発を手掛けてきた。それらの技術と経験が、同社のグローバル展開につながっている。

「前職でベトナムに赴任した際、ベトナム人の優秀さがすぐにわかりました。特にハノイ工科大学についてはベトナム最高峰と言われ、現在に至るまで産学連携共同研究開発を継続しています。中でも学術向けPGA開発環境や、AIサイエンティストが集まっている付加価値は非常に高いと思います。このような知的生産性の高さが海外連携の特徴の一つであり、将来市場として捉えた場合、今からPCTで世界に基礎出願の日を主張できることは非常に優位だと思います」

「既存インフラ事業」「新規インフラ事業」「AI・IoT事業」を3本柱に海外市場を含めて展開するS・Iシナジーテクノロジー。自社の技術を通して、人と社会に貢献することを目指している。

第15回多摩ブルー賞 優秀賞受賞

SIシナジーテクノロジー株式会社
<http://sisynergy.com>

東京都八王子市大和田町2-9-2
TEL:042-648-1420 FAX:042-648-1421
E-mail:info@sisynergy.com

●創業:2013年7月 ●従業員数:11名(2021年2月末現在)



社長のひとこと

当社は、組み込みCPU、FPGA、IP、Deep Learning技術などをコアとするプロアクティブ技術者集団です。AIやIoTの導入をお考えの方がいらっしゃいましたら、遠慮なくご相談ください。

子どもたちの理化学離れを食い止めるため 授業で使える分析装置を開発



理化学やものづくりの 楽しさを知ってもらいたい

流体を扱う理化学分析装置や医用分析装置などを開発・製造・販売する株式会社ユニフローズ。特に、小型化・軽量化・高性能化に注力し、省資源、廃棄物削減など環境負荷の軽減にも努めている。同社は、全売上の約8割を医用分析製品が占めるなか、教育用の小型分析装置

「e-HPLCことり」を開発した。その理由を森川秀行社長は次のように語る。

「現在、国を挙げてIT技術の推進に走っており、理化学に興味を持つ学生が少なくなっています。今まで日本を支えてきたものづくりが置き去りにされているのです。しかしものをつくる人材がいなくなり、使う人材ばかりになると、国力が低下するのではないのでしょうか。当社においても、技術者を雇おうにも学生がいけないという問題もあります。そこで子どもたちに、自分が飲んだり食べたりにしているものに興味を持ってもらうと開発に着手しました。そこをきっかけに理化学分野に入ってくる人材を増やしたいと思っています」

子どもたちの理化学離れを食い止めるべく教育分野に進出したのだという。

教育分野の製品で アジア諸国へ進出したい

「e-HPLCことり」は簡単に操作でき5分程で分析が可能な液体クロマトグラフ(物質を分離させる装置)だ。A4用紙に3台乗せられる超小型サイズで、

電源を入れるとすぐに立ち上がるのが特徴。小学校の授業はもちろんだ、大学や研究所でのプレ分析や工場・作業現場で品質管理の一環として簡易分析をするときなどに活用できる。これまで開発した医用製品と違い、子どもたちも使用することから、「使うことがおもしろい」と思ってもらえるよう工夫したのだという。

「安全に使用できることは当然ですが、そのほかにも、『装置の内部まで見える』『50分の授業の中で最低でも5件は分析できる』『使った結果がすぐわかる』などに重点を置き、そのために不可欠な機能は何かを追求し、できるだけ簡素化することを目指しました」

同社は地域の大学や自治体、民間企業などと連携した科学系イベントの開催・参加にも積極的で、自社の工場見学体験を開くこともある。そこで実際に製品を使ってもらい、確かな手応えを感じている。

「e-HPLCことり」で、教育に熱心なアジア諸国への進出も考えているのだ。

株式会社 ユニフローズ
代表取締役

もりかわ ひでゆき
森川 秀行 氏

宮崎県出身。日本電子株式会社を経て、1975年にサヌキ工業株式会社を設立。1985年株式会社ユニフローズを設立。数々の開発や取り組みにより受賞歴多数。

第1・3・7回多摩ブルー賞 優秀賞受賞

株式会社 ユニフローズ
<http://www.uniflows.co.jp>

東京都あきる野市山田405-3
TEL:042-533-0508 FAX:042-533-0510
E-mail:tokyo@uniflows.co.jp

●創業:1985年2月 ●従業員数:45名(2021年2月末現在)



社長のひとこと

「世の中にないからできない」ではなく、なければ自分でつくる。こんなものを欲しい人がいるのではないか?そう思ったらず試作品をつくり、現物を見たり、触ったりしながら、需要を掘り起こす。これが私のものづくりです。

Tama Blue&Green Club Business Report 倶楽部事業レポート

多摩ブルー・グリーン倶楽部は、多摩ブルー・グリーン賞受賞企業と選考委員、後援団体による組織です。受賞企業の経営課題の解決と相互連携および地域経済の振興を目的に、事業を通じて会員相互の連携を深めます。2020年度に実施した事業の一部をご紹介します。

1 多摩ブルー・グリーン倶楽部 2020年度総会

実施日 2020年12月14日

多摩ブルー・グリーン倶楽部2020年度総会において、決議事項として、2021年度の倶楽部新役員4名が選出されました(再任)。また、報告事項として2020年度例会報告・事業について、コロナ禍による影響もありましたが、9つの事業の実施を報告しました。



倶楽部新役員紹介

会長

東成エレクトロビーム株式会社
代表取締役社長

上野 邦香 氏

副会長

FSX株式会社
代表取締役社長 兼 最高経営責任者

藤波 克之 氏

副会長

金澤建設株式会社 代表取締役社長

金澤 貴史 氏

副会長

株式会社セキコーポレーション
代表取締役社長

山木 孝之 氏



TOPICS

公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩より、会員企業による「多摩未来奨学金の協力」について感謝状が授与されました。

2 オンライン情報交換会「まなびばたま」

実施日 2021年2月25日(木)

ビデオ会議システムZoomによるオンライン情報共有イベントを開催し、15名の方が参加しました。会員企業の取組を共有し、これからの変化を知り、新しい未来をともに考えることで、「ゆるやかな連携と意義のあるネットワーク構築」を目的として今後も実施していきます。



「第30回例会」のご案内

日時 2021年4月14日(水) 14:00~17:00(受付開始 13:30)

場所 たましん本店4階 大会議室 (東京都立川市緑町3-4)
オンライン(Zoom)による視聴参加も可能です。

内容 第1部 講演『コロナ禍におけるリーダーシップ』

■ **山西 健一郎氏** 三菱電機株式会社 特別顧問
一般社団法人日本経済団体連合会 副会長

1951年生まれ。1975年京都大学工学部卒業。三菱電機入社。
生産技術センター副センター長、生産技術センター長を経て、
2006年常務執行役、生産システム担当に就任。
上席常務執行役、半導体・デバイス事業担当を経て、2010年4
月執行役社長に就任。2014年より取締役会長を務め2018年4
月より取締役相談役、現在に至る。
公益財団法人日本テニス協会会長、公益社団法人日本観光振興
協会会長も務める。



第2部 第18回多摩ブルー・グリーン賞
受賞企業のご紹介
(最優秀賞受賞企業2社によるプレゼンテーション)

定員 50名程度(オンライン(Zoom)による視聴定員は90名程度)

申込方法

以下 URLの受付フォームにて3月31日(水)までにご回答ください。
https://www.tamashin.jp/bg-club/event_app/reikai.html



- ・ご自身に発熱(37.5度以上)の症状や体調が優れない場合は参加をお控えください。
- ・会場の入口付近にアルコール消毒液を設置しますので、入室時には、手指のアルコール消毒をお願いします。
- ・マスクを着用した上でご参加くださいますよう、ご協力をお願いします。
- ・会場内での飲食はお控えくださいますようお願いいたします。適宜水分を補給いただくことはこの限りではありません。
- ・新型コロナウイルス感染症による影響を考慮し、中止や延期、内容の一部変更となる可能性があります。

多摩ブルー・グリーン倶楽部事務局

多摩信用金庫 価値創造事業部

東京都立川市緑町3-4

TEL: 042-526-7728 E-mail: bg-office@tamashin.net